

編集の序

内科領域の最近の話題はなんといっても、メタボリックシンドローム対策をはじめとした生活習慣病の問題でしょう。メタボ健診の是非はさておき心筋梗塞、脑梗塞といった血管障害の基盤には高血圧、高脂血症、耐糖能障害といった状態が存在し、糖尿病という疾患を扱う臨床的立場からみれば、これらの病態は表裏一体のものとみることもできます。

我が国で大きな問題となっている糖尿病について日常臨床に役立つハンドブックを作ろうということで、2007年10月に『糖尿病診療ハンドブック』を編集させていただきました。おかげさまで皆様に評価をいただきましたが、薬物療法の実際に関して記述を入れきれず、疾患のマネージメントと病態の説明に終始してしまいました。そこで姉妹編として『治療薬ハンドブック』を作成しようというアイディアに至りました。

本書は糖尿病を専門としない医師や研修医、専修医などの若手医師、そして全てのコメディカルの方を読者として想定し、糖尿病の血糖値調整の薬物のみならず、合併症治療における薬物療法にも範囲を広げて記述しています。記述は簡潔明瞭になるよう、また実際の診療に役立つ内容となるよう注意しました。ガイドラインの記述等とは異なる部分もあるかと思いますが、実地臨床に即したものであり、スタンダードを無視したものはありません。執筆は編者とともに地域糖尿病症例検討会で議論をしてきた専門医の先生方、編者勤務先の同僚、そして糖尿病診療に対する情熱あふれる全国の諸先生にお願いしました。ご監修はいつも明快かつ的確なご発言で、我が国の糖尿病学をリードされている河盛隆造先生にお願いすることができました。

本書が糖尿病臨床への理解を深めようとするすべての医療関係者の役に立つように願っています。

2008年5月

日吉 徹